

佐倉・四街道・八街・富里・酒々井地域協議会

- 1 日 時 令和8年3月17日（火） 午前10時から午後12時10分
- 2 場 所 順天堂大学さくらキャンパス 3号館8階カンファレンスホール
- 3 出席者 別紙名簿のとおり（15名／19名）
- 4 概 要

【委員】

- ・アンケートを見た。高校無償化が具体化したとき、県立高校の良さ、保護者の期待が消えてしまうことが懸念である。私立含め、高校進学状況が変わってくるのではないかと感じた。
- ・説明の中で、地域連携協働校について、これまでであるアクティブスクールとは違った取組ということか。近隣の協力校とは近隣のどの学校か。

《事務局》

- ・アクティブスクールは6校ある。基本方針として学び直し、実践的なキャリア教育を柱にしている。
- ・地域連携協働校は、昨年10月、県立高校改革推進プラン第2次実施プログラムで初めて多古と市原を指定した。両校とも3学級の小規模校で、地域に欠かせない学校である。地域社会との結びつき、近隣の学校との連携を通じて活性化していきたい。
- ・近隣の学校は近隣の県立高校を想定している。どの学校を連携先とするかは検討中である。今後、もっと小規模になったときに協力校を指定することを考えている。

【委員】

- ・佐倉市の方では、成田空港の機能拡張により4万人から7万人に増加するとされている空港就労人口の影響が、今後どのように出るかを見定める必要がある。学校が減ると、教育の選択肢が減る、街の魅力も減るため、再編の検討は難しいところがある。
- ・佐倉市は県立5校と連携協定を結んでいる。佐倉市民が市内県立高校に通う割合は低いようだが、外から通って来ている生徒も含め、県立高校の生徒が持つ活力は助けになっている。
- ・人口減、施設老朽化を前提としなければならないが、保護者から老朽化対策や教員確保について要望があるのは佐倉市も同じである。再編しないと施設改修や教員確保に投資ができない。また、外国人生徒の増加への対応も課題である。県と

してどのように対応しているのか聞きたい。

- ・アンケート結果については佐倉市の回答割合が高いので、市として今後の参考にさせていただく。
- ・適正配置については、現状と推計、財政的論点だけでなく、千葉県内にどの様に居住してもらうかの人口プランが必要ではないかと感じた。
- ・他県に負けない国際文化県となるよう県が理想とする人口配置に沿って、学校配置も定めていく。また特色のある教育、航空関連産業、農林水産業研究など、県の推進したい産業分野に特化するなど。ただ、そうは言っても人は思う様には動きませんし、佐倉市も課題は全く同じなので人ごとではありません。成田空港の機能拡張の影響を見ながら、縮充に向けた工夫ができたらと思う。

《事務局》

- ・今後の人口減をみると、121校あるが、ある程度の統合は必要ではないか。今年度3組の統合を打ち出した。現在、20~30年後の統合の数についても検討中である。
- ・選択と集中が重要、というのが県の方針である。残る学校に投資する。一気にできないので順次進める。
- ・外国人生徒については、翻訳アプリやコーディネーターといった、予算を少しずつ拡充している。

【委員】

- ・何十年も前だが、学区制度の犠牲者だった。八街市では第一学校群にしか通えなかった。千葉、千葉東などは成績上位10%でないと受検できなかった。そういう制度が導入した年に入学した。
- ・今思えば、学力の平準化を目指そうとしてそのような制度を入れたのではないかと考えていたが、3年で終わった。東京が学校群制度を終えたときに千葉が始めたのだった。
- ・通える学校は自由に選べた方がよいのでは、という印象を今も持っている。子供がいて、上が私立、下が公立に通った。私立は負担が大きい者の面倒見がよかった。公立は安い、と思ったが予備校に通うことになったので結局同じくらいの負担になった。
- ・無償化により公立離れが起きているのではないか。
- ・様々な説明を聞いたが、少子高齢化の中で生徒の確保は公立が大変だと思うが、公立がよいという流れを作ってもらい、魅力ある学校を作っていただきたい。
- ・私は何処でも受けられる学校、普通科ではなく総合学科を増やしてもらえたら良いと思う。

- ・来年度から教員の任用に関する意見書を出せるようになったと聞いた。そのことについて聞きたい。
- ・全国的に少子化の影響で高校の小規模化が進んでいるが、一方でグローバル化や情報化が進み、進路選択が広がっているので、公立高校には充実した教育を望む。
- ・生徒の多様な進路希望への対応が求められていると思われる。
- ・今後は特色ある学校づくり（デジタル化等）が必要であり、一方で財政的な制約や施設老朽化の改善を望む。
- ・一定の集団規模を維持し、活力ある学校運営と持続可能な教育を目指してもらいたい。
- ・生徒たちが現在考えていることを十分把握した中での学校づくりが必要ではないかと考える。
- ・従来の普通科主体の体制から、A I ・ I T活用や地域連携を通じた魅力化・特色化への転換を図る必要があると考える。

《事務局》

- ・千葉県は一都三県で学区制が唯一残る。普通科以外の専門学科はどこでも受検可能である。総合学科もそうである。普通科に限り、女子校以外は居住、隣接学区のみ受検可能である。
- ・プラン策定時に学区についても議論している。過去の議論の様子を見ると賛否両論である。学区撤廃もあれば、特に県南では学区を無くすと北側に若者が流出してしまうのではないかとという危惧も強い。引き続き検討を続ける。
- ・コミュニティスクール制度が今年度までに121校、全校に導入された。コミュニティスクールでは、協議会から校長を通じて、県教委に意見書を出せるので、是非活用してほしい。

【委員】

- ・我々も人手不足である。これから県立高校、小中学校も減っていく。小中学校は市立、県立の高校、そのあたりの連携はどうなっているのか。
- ・近隣の工業高校の進路指導の教員と話す機会がある。千葉市の工業高校では、定員割れしているが、求人は2千くる。工業、商業の高校の再編は今後どうなっていくのか。

《事務局》

- ・地域の小中学生の数について分析しつつ高校の再編を検討している。
- ・県としては、公私ともに協力し、子供たちに互いのよいところを見せて、子供たちに選択肢を提示したい。
- ・定員については県と私学協会でも協議して設定している。

- ・実業系の学校の再編についても検討が必要だが、県立高校の強みの一つに実業の学びがあると考えるので、実業系の学校の再編統合については丁寧に進めなければならぬ。

【委員】

- ・富里は地域からの強い要望で創立した学校である。市役所との連携も取っている。例えば、投票や、市の事業についての意見を聴くこともある。市の緑の基本計画の策定にあたっては、富里高校の生徒に協力してもらいながら策定に至っている。
- ・富里市全体としては、宅地造成等の開発関係になるが、成田空港の機能強化を前に、盛んに宅地造成が進められている。県内でも開発申請が多く、民間事業者が造成を活発に進めている。
- ・これを背景に、結婚から子育ての支援に係る重点パッケージを設定し、関係人口の確保に努めている。
- ・戸建ての住宅しか建てられない土地の規制を緩和し、高い建物も建てられるようにするなど、受入れがしやすい体制を進めている。
- ・交通面では、富里には駅がないものの、バスについては、成田駅と八街駅を結ぶ本数が多い。理由は富里高校を経由しているからであり、生徒の利用が多い。富里高校は成田から来る子が多く、成田駅からバスで通学する子、又、八街から来る子も多い。多数の生徒がバスを使うので、本数も多く、バス事業者も採算性の向上などメリットがある。その結果、生徒以外の利用者にとっても地域交通として欠かせないものとなっており、利便性の向上が図られるなど好循環に繋がっている。
- ・高校はまちづくりの重要な核となっている。少子化の中大変とは思いますが、地域の理解を得られるような再編を進めていただきたい。

【委員】

- ・学区制の話があった。様々なニーズが時代とともに変わっている。学区制のよいところ、悪いところはともにあると思う。第一学区に生徒が流出している。私からすれば、学区撤廃すれば第一学区に生徒が流れ出す。その行き着く先は、地域から学校がなくなること。それを思うと慎重になってしまう。
- ・子供たちの声はどうか。廃止か存続か、アンケートは取っているのか。
- ・私学の無償化、これは驚いた。倍率を見ても流れていることはよくわかる。県立学校の施設老朽化は深刻な問題である。予算の確保はどうなっているのか。また、本校の体育館は避難所となっているが、夏場は室内温度が高く避難所として機能していない。エアコンの設置は考えているのか。

- ・国の高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）が示され、3000 億円規模の予算が投入される。本校は理数教育の拠点だ。文部科学省は理系を 5 割にしたいとある。理数科は現在 8 校ある。県は理数教育を発展させねばならないところを、匠瑳の理数科を廃止した。今後どうするのか。

《事務局》

- ・アンケートは検討したい。
- ・施設については R11 までに県立全校のトイレ洋式化を目指している。
- ・エアコンは普通教室全て完了している。今は職員室、管理所室で 115 校整備済みであり、残りも進めている。
- ・エレベーターは 18 校に整備中で、県の目標は R10 までに 4 割を目指している。
- ・専門高校の設備老朽化への対応も必要である。
- ・体育館のエアコンについては、体育の授業だけでなく、避難所にもなるので、体育館の空調も整備を進めていると聞いている。
- ・理数教育について、国は今、普通科の子供たちが文系志向であるので、その普通科の子たちにも理数の学びを入れていこうとしている。これからは文系、理系の垣根をとっばらおうというのが国のスタンスではないかと思っている。

【委員】

- ・現状のままでは、体育館は避難所として機能しているとは言えない。避難される方々の健康を確保するためにも速急な整備を求める。

【委員】

- ・アンケート見ると 7 割が普通科希望で、大学進学を求める子が多い。
- ・これだけ高校の魅力化が行われている中でも、結局は普通科が一番となっている。

【委員】

- ・アンケートの結果を見た。普通科志向が強い。進路指導をする際に、中学生にやりたいことを聞くと、分からないと言うことが多い。進みたい道を決めるよりも普通科で色々やるのはどうか、と提案することが多い。しかし、そういう時代でも無いのでは、と思うこともある。
- ・進路指導をして興味のあることを聞いた際に、福祉・保育に興味があると言われて、保育コースがある学校を提示するが、そのコースに進んだ後の出口はどうなっているのか、が非常に気になっている。たとえば、教員基礎コースに進学した後に、教員養成系の大学への入学が優遇されるなど、コース設置後の出口についてどうなっているのか、聞きたい。

《事務局》

- ・コースを作って終わりだとは思っていない。コース導入3年後、又はコース設置7年後にどのような進路を選んだのか、などを評価するためにアンケート調査、評価をしている。県教委ページに掲載しているので参考にしてほしい。

【委員】

- ・アンケートは色々なヒントがあるものとして読んだ。子供たちが今、再編は行政主導で行うものとなっているが、欧米では地域の意見、合意形成を聞いてやることもある。その結果失敗することもあるが。
- ・中学の校長としては、職員からは、自宅から近いところ、というものが圧倒的に強い理由となっているという声を聞いている。
- ・割と駅から近いところは依然として人気がある。学力が安定し、進学実績がある学校は放っておいても集まる状況にある。
- ・インフラの部分で、交通があるところが重要である。それを含めて大事なところだと思う。それをどうするのか、県立高校の情報発信量が少ないことが課題である。三者面談で高校の情報調べについて聞くと、私立に比べて情報発信が弱い。公立も自分の学校をうまくアピールできるようになれば、変わるのではないか。県は学校に情報発信を任せているように思うが、積極的に情報発信を進めていくべきではないか。情報発信は学校任せなのか、県は何かしているのか。

《事務局》

- ・明日、県教委とnoteで連携協定を締結する。県教委、全公立学校にnoteを導入する。画像、音声をあげやすくなる。サムネイル表示もされる。画面がスタイリッシュで整っている、そのような媒体を導入する。新たなコンテンツが4月から加わる。明日以降、県民にPRしたい。

【委員】

- ・貴重な資料に感謝する。私学の立場として見ると、どうしても経営のことを考えなければならない。大胆に再編統合していただきたいと言わざるを得ないが、教育を考えると、教育環境を第一に考えなければならない。
- ・事前に資料を読んだ上で意見を伝える。基礎資料を見ると、中卒者は減少の一途であり、それは地域全体の教育維持に係る共通課題ではないか。アンケート結果を見ると、中学生は設備校舎のキレイさ、通いやすさが中心になっているのではないか。現状小規模校が点在しているとあるが、それでは生徒一人当たりの教育資源が分散してしまうのではないか。
- ・私学は生徒一人一人に自らの判断で対応できる。

- ・無償化については、授業料相当だけであり、その他の負担は変わらない。結果的には私学の方が金額的には未だ高い。無償化が私立にとって良いのか、というところを挙げて良いといえる状況という訳でもない。
- ・公立学校において、教育資源の分散を、再編統合により集中できるようになり、私立ではできない、多様な選択肢を持った拠点校を作るのはどうか。人的資源の量については、私立はかなわない。
- ・グランドデザインについては、これからの学校では文理横断、専門の学びの高度化が求められている。本地区でも英語、情報の学びの充実を考えたときに、一定の学校規模が必要である。統合するとパワーアップして生徒の選択肢を実質的に広げることになるのではないかと思う。
- ・公立が再編統合により、学びの定義をアップデートできれば、私立と切磋琢磨することに繋がるのではないか。
- ・他学区への流出についても、これらのことが実現できれば大いに抑制することができるのではないか、果敢な再編統合を推進していただきたい。私立としての勝手な思いかもしれないが、私供としてはそのように考えている。

【委員】

- ・10年で10組統廃合とある。国も学校を含めた全ての公共施設の統合について進めている。八街市にも市営住宅の運営状況について国からの検査があった。もしかしたら県立高校にもその波が来るのではないか。
- ・JR成田方面は空港で活発化するかもしれないが、八街高校はJRの総武本線側である。高校が減れば、利用者も減る。ダイヤの再編成にも繋がる。公共交通との関係を見つつ、再編統合を検討してほしい。
- ・佐倉東高校には特化した科がある。このような特化した科を増やし、企業との連携を進め、その中で高校の魅力化を見せることができれば、という個人的な感想がある。
- ・今後、統合等により10校程度、学校の集約が進むと思われるが、佐倉東高校の様な、プロ技術、免許取得ができるようなある程度資格取得に特化するような高校が増えてもよいのではと感じた。
- ・都市部への高校を希望する生徒が多い中、第4学区及び第6学区は減少傾向にあると思われる。第4学区でもJR成田線方面は今後、利便性が向上するが、八街・成東方面の総武本線は増加がなかなか見込めない状況のなか、高校の廃校等による鉄道等公共交通運用に影響が出ることも想定されることから、その辺も加味していただきたい。
- ・施設維持管理の観点からは、施設の集約化、縮小化等、進めて行くべきと感じる。

- ・また、現状で空き教室があるのであれば、難しい運用かも知れませんが、地域活用、民間活用などで生徒の交流の場等で有効活用ができればと思う。
- ・現状の志望学科として普通科及び未定としている比率が多いが、「資格を取りたかった」との意見もあり、資格を取得できる高校が身近にあると進路選択に変化もあるのかとも思った。
- ・土木人材が減るなか、土木施工資格試験の国家資格の年齢条件の変更等、国家資格要件などの変化にも対応した学校運営ができると素晴らしいと感じた。
- ・民間企業との連携、協働等により、生徒の社会経験、実社会につながる授業ができると素晴らしいと思う。
- ・経験は無駄になることはないので、社会に触れられる環境が増えると、その後の進学、就職活動にも好環境となるのではないかと。

【委員】

- ・町づくりに絡めながら話したい。この手の資料は初めてで、勉強になった。人口減は仕方ないが、市川、船橋、浦安、松戸あたりは増えている。四街道は維持となっているが、その理由は外国人である。四街道市議会でも話題になっている。歯止めを考えても、はっきり言って歯止めは難しい。市川は立地条件が良い。47万からの減を想定していたが、50万に増えた。
- ・公共施設の統廃合は国の方針で進めている。都市としてもコンパクトな都市として、居住地域を集約してコンパクト化し、経費を抑えようとしている。しかし、反発が強いため少しずつ進めている。また、他の町とは違う特徴を出すよう工夫も重ねている。
- ・特徴を出してやっていただければよい。卒業生の評価も大切、どんどんやってほしい。統廃合はやむを得ない、慎重に協議しながら進めて欲しい。

【委員】

- ・アンケート結果から、急速な少子化、都市部への流出、が見えてきた。これは全国的な傾向として捉えられる。県は適正規模・適正配置を示しているが、これに基づいた統合はやむを得ないと思う。学校運営上、ある程度の生徒がいないと教育活動に影響がでる。しかし、単にくっつけるだけでなく、統合の中でどう付加価値をつけるかが大切である。
- ・アクセシビリティ、駅近であることが大切である。また、子供たちは上り志向である。
- ・ユーザビリティ、どれだけ子供たちの多様なニーズへの対応できるかが使命の一つである。不登校生徒の増加、外国籍の生徒の増加、特別な支援が必要な生徒、

キャリアに悩む生徒、このような生徒への対応が大切である。

- ・ 定時、通信を含め、多くの選択ができる学校があること、これは評価できる。今後新たな統合を進めるにあたって、多様なニーズを拾って学校づくりを進めていく必要がある。
- ・ 志望動機をみると、将来の自分像と結びつくかどうか、が本来の志望動機となるべきではないかと思う。小中段階でのキャリア教育が大切かもしれない。施設の充実については、エアコン、エレベーター、トイレは予算をとって順次進めている旨を県民の方々へ情報発信をして、県立高校の魅力発信に向けた取組を進めていることを伝えて欲しい。

【委員】

- ・ 保護者と生徒の意見が違うという前提で話をする。アンケートの結果を見たが、保護者は負担軽減を重視している。私立の授業料無償化を考えると、各家庭の経済状況は、私立が選択肢になった家庭の方が多いと思われる。私立には学区がなく、通おうと思えば通える、というのも事実である。
- ・ 公立の設備老朽化を改善しない限り、私立高校に生徒が流れる。
- ・ 富里市では順次公立学校のトイレの洋式化を進めているものの、保護者からは和式トイレを残すべきとの意見もある。ただ、これは和式トイレに慣れておくべきだという観点であるが、高校にまで和式を残す必要はないと思う。
- ・ 各地区に最低でも1校は、存続すべきかと考える。
- ・ 施設の老朽化対策は、急務かと考える。
- ・ 良い施策と思いますので、各地区とコミュニケーションを図りながら実施して幅広く意見を取得していただきたい。
- ・ 少子化の割合で、学区の再編を希望いたします。特に茂原より下の南房総と考える。

【委員】

- ・ 富里市としては、県の気持ちも理解できる。少子高齢化の中で、統合はやむを得ないという意見を伺っている。富里には富里高校が1校ある。行政との連携を盛んにやっている。市としても積極的に応援したい。
- ・ ただ、富里高校は普通科のみであり、委員さんからの意見の中でも、他の学びにより魅力を増していけるのではないかとこのものがあり、私も同感である。
- ・ 富里市の小中学校では、避難所指定されているので、昨年7月から10校という少ない校数ではあるものの、空調設備を本格稼働した。体育館に空調が入ったことで、先日も暖かいなかで卒業式を迎えられた。

- ・洋式トイレ整備について、統合を見据える中、現在稼働しているトイレの洋式化は100%を目指しているのか、どうか。
- ・各県立高校それぞれに歴史も魅力もある中で、少子化に伴う統合もやむを得ないと思うが、難しい課題と感じた。
- ・流入と流出の課題に関し、学区の廃止という意見もあったが、都市部集中となると、その後の市町村人口にも繋がるので、慎重な検討をお願いしたい。
- ・アンケートについて、富里の回答が少なかったことは、気になるところである。回答方法がウェブか用紙か分かりませんが、今後、アンケート方法も再検討願いたい。

《事務局》

- ・R11までに全トイレの洋式を目指すと聞いている。

【委員（当日欠席）】

- ・高校再編の流れについては適切だと思う。特に、高校を統合したり、魅力ある学校へどのように再編していくか、とても大切なことであり、今後の県立高校の存在を高める意味でも重要だと感じた。
- ・中学校からの視点で考えると、県立8校の役割がそれぞれあり、こちらの地区については、進学校を選択するに当たり、適正かと感じる。しかしながら、大変失礼だと思いますが、佐倉西高校の今後の在り方については、課題があると感じている。さらに特色が出てくることを期待したい。
- ・適正規模・適正配置の考え方については、適切だと感じている。
- ・県立高校に対するニーズが多くあることを感じた。もっと県立高校の魅力を高めるため、各校の特色を出し、教職員の質を高め、施設整備などを進めていく必要性を感じている。
- ・県立高校については、自分の学力やニーズを考え、選択できるというメリットがあり、欠かすことができないと考える。また、地域の実情に合わせ、居住地から通学しやすいという利点もあり、生徒や保護者にとって欠かすことができないと思っている。
- ・しかしながら、私立高校と比較すると、教職員の質や施設面の充実など、差があるのではないかと感じる面もあり、今後の課題だと感じる。県立高校の魅力をさらに高めるにはどうしたらよいか、考え、尽力してもらいたい。

【委員（当日欠席）】

- ・各高校とも、令和8年の志望倍率は、一定の数値を満たしており、極端に低い高校は見受けられない状況を確認できた。

- ・また、当該地区は県東部や南部へ位置づけられているが、その中においても人口減少の状況は地域により大きく異なると思われるので、今後の生徒数の動向に注視する必要があると考えられる。
- ・各学校とも全校生徒数が、募集定員を大きく割り込んでいる傾向は見受けられない現状ですので、大きな課題はないと思われませんが、今後は施設の老朽化に伴う、大規模改修工事や施設の更新などのコスト面も検討内容に含め議論を進める必要があると思う。
- ・人口減少や施設の維持管理や改修項になどにかかるランニングコストを想定するとともに、国による高校無償化の支援も拡充されていることから、私立高校の今後の状況についても併せて検討の土台にのせ、市立高校の動向を含めた、総合的な判断が必要になるとと思われる。

【委員（当日欠席）】

- ・各高校該当地域は地域によって交通利便性に大きな差があります。よって便の悪い地域ほど大切にしていきたいと思っています。
- ・全体としては、学習指導要領の縛りがあるので限界はあるでしょうし、すでに実践されていることですが専門的な知識または資格がとれる教育課程を編成し、私立高校との差別化を図る必要があると思います。
- ・オンラインで複数の学校の授業を受けられる、また、比較的、交通の便がいい地域では高校をひとつのキャンパスとして「1年次はA高、23年次はB高で学ぶ」ようなシステムも考えられます。
- ・たいへんなのは承知しております。ハード面で対抗するのは難しいと思われるので、今までにない、あり得ない、そんな思い切った変革をおこしてぜひとも公立高校の存在意義を示していただきたいと思っています。
- ・中学生を指導してきた感覚からすると、高校進学は保護者の影響（支援）も大きいと思います。ですから子供のニーズも大事ですが、保護者のニーズにどのように答えるかが大きいと思います。公立高校のアピール対象としても保護者に焦点をあてる必要があると思います。
- ・保護者のアンケートを見るとやはり、施設や費用に関する回答が上位に来ています。失礼な言い方になりますが、ここで争うことは難しいと考えます。そうするとやはり「学力」が大きなポイントになります。現実的には 学力 がなければ行きたくても、行けません。次は 専門性 になります。そうすると前述した「専門的な知識または資格がとれる教育課程」になろうかと思っています。必要とされる資格や専門性も時代とともに変わっていくので難しいところではあります。しかし、一定の子供たちにとって「高校で資格や専門的な知識が身に付く」ことの

意味は大きいです。そのあたりの認識は保護者にあると思われます。

- ・理想は、ほとんどの子供が、高校は地域の学校に行き、そこから次の進路を選択することだと思いたすが、これを目指すのは現実的ではないと思います。